

# 第4回 双葉町復興まちづくり委員会

## きずな部会 議事録

■日時：平成25年1月17日（木） 委員会 午後1時00分～午後2時45分  
部会 午後3時00分～午後3時45分  
委員会 午後4時00分～午後4時30分

■場所：双葉町役場埼玉支所 4階4-C

■出席者：きずな部会委員  
事務局（双葉町企画課）

（参照：第4回きずな部会座席表）

### 1. 開会

【岡村 隆夫 副部会長】

それでは皆さん揃いのようですので始めたいと思いますので、よろしくお願ひいたします。本日部会長の高野泉部会長が都合で欠席ということで、副部会長の私、岡村ですが、議事進行に妨げにならないようにしたいとは思いますが、皆さんのご協力をいただきながら進めたいと思いますので、どうぞよろしくお願ひいたします。

### 2. 議事

（1）双葉町民のきずなの維持・発展に向けた取組の考え方について（審議）

【岡村 隆夫 副部会長】

それでは、早速議事に入りたいと思います。本日の議題は、「双葉町民のきずなの維持・発展に向けた取組の考え方について」ということとございます。事務局から資料の説明を最初にしていただき、それから皆さんのご意見を伺いたいと思います。よろしくお願ひします。

【事務局 橋本 靖治】

お疲れ様です。事務局から説明させていただきます。資料2が今日、皆様に具体的に議論をしていただく論点を整理したものでございます。先程、大きな委員会の方でも説明ありましたが、今、大きな委員会の方では、計画に盛り込む骨子と言いますか、項目をこういうふうに見次立てしていきたいというようなことで先程の委員会で説明させていただきました。「それで概ねいいんじゃないか」ということで、皆様にご了承いただいたかというふうに思っておりますが、このきずな部会の中では計画に盛り込む、このきずなの維持・発展に向けた取組に盛り込む内容ということで、部会でより細かく、その項目立てを示したものでございます。今日はこの資料2に本日の論点というふうに書いてございますけども、盛り込む項目に追加・修正すべき点はないか、このことについて皆様からご意見を頂戴したいというふうに思っています。まず、内容についてご説明します。大きく4つの取組の項目を示してございます。

まず1つ目、町民のコミュニティの維持・発展に向けた取組ということで、町民の交流機会を確保していくための取組、7000人の復興会議の結果から町民の交流を確保していくための取組

37 の整理ということで、これまでのきずな部会の中でも様々なご意見が出てございました。やはり  
38 交流イベントを開催して、町民同士が集まれるような機会ですとか、そういった仕組みをつくる  
39 必要があるんじゃないのか。それから、町民同士が連絡を取り合えるような仕組み。これは具体  
40 的に言うと新電話帳のお話になるかと思いますが、こういうものが必要になるのではないかと  
41 いうようなご意見が出されましたので、こういった項目について計画の中に盛り込むべきとい  
42 うふうに考えてございます。また2つ目の○でございますが、町民への情報提供、これ7000人の復  
43 興会議の結果から町民への情報提供の円滑化に向けた取組を整理ということで、これまでの  
44 7000人の復興会議の中で、町民の方からよく出てくのは、情報が役場からなかなか来ない、役  
45 場が何をやっているか分からないというそう言った厳しいご意見等もいただきましたので、これ  
46 についても具体的にどうしていくかというところについて取組むべき内容として整理すべきじ  
47 ゃないかというふうに感じております。具体的に言うと、こちらの部会の中でお話ありまし  
48 が、タブレット端末。富岡町なんかではもうやってるんですが、画面が見えるようなそういった  
49 もので、ラジオを聞いたりとか、町からの情報を得たりとか、そういったものの活用というもの  
50 も具体的に考えられるのかなというふうに思っているところです。

51 大きな項目で言う2つ目のところ、双葉町の歴史・伝統・文化の継承のための取組ということ  
52 で、歴史・伝統・文化の記録の取組。7000人の復興会議の結果から双葉町の歴史・伝統・文化  
53 の記録に向けた取組を整理ということで、きずな部会の泉田委員からも話がありましたが、「今  
54 双葉町の歴史とか文化、そういったところを継承するための活動を今やっておかないと取り返  
55 しがつかないことになるのではないか」というような貴重なご意見もあったので、これらも取組  
56 むべき内容として盛り込んではどうかというふうに考えているところでございます。まず具体的  
57 に言うと、双葉町に所在する文化財の保存・管理、無形文化財の記録ですとか、双葉町の風景・  
58 生活等のデジタル化、写真等ということで、後世に今の双葉町の現状、それから事故前のもの  
59 についても後生に語り継いでいく、残していくことが必要なのではないかという項目に載せること  
60 を検討しているところでございます。次に歴史・伝統・文化の継承の取組ということで、7000  
61 人の復興会議の結果から双葉町の歴史・伝統・文化の継承に向けた取組の整理ということで、具  
62 体例としては、伝統文化継承の人材育成。これは例えば、中村委員が実施されてるような相馬流  
63 れ山踊り、双葉音頭、齊籐委員なんかも取組まれてらっしゃるような神楽ですとか、そうい  
64 った伝統的な文化について、伝統文化として継承する人材を育成しなければならない。また、残  
65 していった育成もしていかなくちゃいけないというようなことも盛り込むべきじゃないかとい  
66 うふうに考えてございます。

67 大きな項目として3つ目ですが、避難先の住民との交流促進に向けた取組ということで、避難  
68 先の住民との積極的な交流、相互理解の促進に向けた取組を整理。また最後になりますが、大き  
69 な項目として事故の教訓の伝承に向けた取組、今回の事故の情報を共有し、全国・世界にその教  
70 訓を発信していく取組を整理ということで、我々が感じてる以上に世界の目が原発事故という  
71 ように向いているように思われます。ここ騎西高校にも様々な海外からメディアも取材もあつたり  
72 して、これは我々自身が考えてるよりも、たぶん世界からかなり注目されているんじゃないか  
73 というようなことも想像できますので、そういったものを残したりとか継承していくというよう  
74 なことも必要なんじゃないか、ということで項目立てしているところでございます。

75 今日資料 2、大きな項目 4 つについてこれから皆様にもっと必要なんじゃないかとか、これ  
76 はこう直すべきじゃないかというような議論をしていただきたいと思います。

77 その資料 2 の次のページになりますが、資料 2 - ②、ここには双葉町復興まちづくり計画、施  
78 策編の構成イメージというものを示してございます。基本方針として、今後施策の部分、復興計  
79 画の中で項目立てをしていって、具体的に何をやっていくんだという施策を、それも計画に盛り  
80 込むようになるんですが、どういう方針で盛り込むかというところでございます。取組の方針と  
81 しましては、短期・中期・長期というような取組の方向をまず整理したいというふうに思いま  
82 す。また、具体的な取組、各論につきましては、各項目に整理するというので。例えば、これ  
83 までの 7000 人の復興会議、それから今後結果が出てきます住民意向調査、そういったもので、  
84 今、町民の方が困っていること、欲しいもの、そういったものが意見として出てくるかと思いま  
85 す。それがまさに課題になるというふうに考えてございます。それについて、町民の方からの提  
86 案、もしくは委員の方からの提案というところで、「こういうふうにするべきだ」、「こうしたほう  
87 がいいんじゃないのか」、「これが必要なんじゃないのか」、課題についていろいろな提案をいた  
88 だいて、施策として取組の方向、何々に取り組む、何々を行う、何々を改善するというようなそ  
89 ういったものの流れで、課題から提案、そして施策というふうな流れで計画立てていきたいとい  
90 うふうに、今構成のイメージとして考えてございます。例えば、具体例を申しあげますと、「友  
91 人の近況や連絡先が知りたい」というご意見がかなりありました。これが課題でございませ  
92 す。それに対して、「交流イベントやったらどうか」とか、「新しい電話帳を作るべきじゃないか」とい  
93 うご提案がありました。それについて、取組の方針として、「交流イベントを年何回やろうよ」  
94 とか、「どういうところでやろうよ」、それから、「新電話帳を作ろうよ」というところが、施策  
95 になるかと思えます。先程前のページで示した項目立てについて、具体的に何をやっていくか  
96 というのは、2 枚目で示したような構成のイメージで、進めていきたいというふうに今のところ考  
97 えてございます。

98 資料 3 の説明をさせていただきます。資料 3 はさらっと説明いたしますが、双葉町復興まちづ  
99 くり計画案に盛り込むべき内容ということで、委員皆様からご提案いただいたところでございま  
100 す。先程委員会の方でも発表があったように、委員限りとしてますので、この場だけ、委員の皆  
101 様だけの資料ということで、公表はしてございませぬ。この中には公表を控えてほしいと言う方  
102 もいたのでその内容を盛り込ませていただいているところです。特に、宇杉先生からかなりのボリ  
103 ュームで双葉町コミュニティデザイン仮の町システムということでご提案頂戴しているところ  
104 ですので、後程ご説明していただければというふうに考えています。

105 それから次、資料 4 にまいります。資料 4 はこれまで委員会ですとか、それから部会の中で、  
106 きずなに関する意見、それから提案について述べていただいたものを全て整理したものでござい  
107 ます。ですから、今後、今から資料 2 のところで大きな項目立てをした中でこれを計画に盛り込  
108 んでいくというのは、全てこの意見、委員の皆様からの意見ですとか、ご提案、これらを項目立  
109 てたつもりでございませぬ。ですから、中には、私のこういう意見言ったのに入っていないか  
110 があれば、それはまさに追加をしていくということでございますし、もっと別なこと考えている  
111 んだということがあれば、それはまさに追加していくことになりますので、今日ご議論いただき  
112 いというふうに考えてございます。部会資料で最後に付けましたのが、前回第 3 回に行われまし

113 た、きずな部会の議事概要ということで、概要を整理したものでございます。これは後程、参考  
114 にしていただければと思います。

115 以上、資料 2、3、4、参考資料ということで、私の方から説明を終わりたいと思います。それ  
116 では、議長よろしく申し上げます。

117 【岡村 隆夫 副会長】

118 今の説明で少し皆さんからの意見を聞きながら、きずな部会としてももう少し煮詰めていくこと  
119 があれば煮詰めていきたいというふうなことをさせていきたいと思いますが。その前に今日の前  
120 半の全体会議ところでも意見ありましたが、全体会議は全体会議ですが、まず私の考えている意  
121 見で申し訳ないんですが、やはり今日も出ましたように、「いつ帰れるんだ」、「どうすればいい  
122 んだ」とこういった行動的な話について、移動についての話は、きずなとして、全体会のまたは  
123 ふるさと再建部会にお任せして、この会は、そのことを頭の後ろに置きながら、一番大事な事は  
124 町民のきずなをどう押さえておくかにつくっていくかということにこの会は絞られてくるだろ  
125 うと思っている。ですから、皆さんの中にこの原発のことについて勉強してきたことを背中に  
126 背負いながら、人々のつながりはどうあるべきか、どうすべきか、いつまでどういうふうにしよ  
127 うかとこんなようなことが論点になろうかと思うんですね。ですからその辺を含めて、私あえて  
128 意見を申しあげたんですが、50 分までしか時間がないものですから、そういう意味で約 30 分あ  
129 るかないかなもんですからね。あえて申し上げたつもりでございますので、よろしく願いした  
130 いと思いますが。

131 【宇杉 和夫 委員】

132 なるべく 30 分ではなく時間をとれるようなシステムをもう少しとったほうがいいと思います  
133 けど。まず、住民コミュニティのところでは、今までの話では、やっぱりその自治、今までの自  
134 治会、それと子どもたちの集まりと、あと高齢者と 3 つぐらい話があったと思いますが、この辺  
135 が、まだ少し正に弱いかなど思ったので。特にその自治会の方はもともとわかっている、お互い  
136 に知っているわけですので。プライバシーの問題を脱却して、お互いに人間、場所とかできるよ  
137 うな仕組みをとってもいいのかなというのと、子どもがやっぱり今回一番、最大の被害者ですの  
138 で、意識がなくてもですね。この方々にどういう、高齢者の方ももちろんありますけれども、そ  
139 の辺の柱が今、抜けているかなと思いますので。町民コミュニティの維持・発展の取組について  
140 のお話です。

141 【岡村 隆夫 副会長】

142 そうですね。その辺、项目的に 1 つにこだわっちゃうとダメですから、全体のこの大きな項目、  
143 4 つありますけれども、その中から意見をいただいきたいと思うんで自由な発言でいいと思  
144 うのですが、いかがでしょうか。

145 【宇杉 和夫 委員】

146 今、歴史・文化の方はもちろんそこであった歴史的な文化をこれから継承するということはあ  
147 りますけど、歴史・文化ができた土台は何かというと、町の空間なんですよ。あそこの町の空  
148 間をこれからどうする、今までどうだったか、大きなテーマありますけれども、もちろん除染とか  
149 その放射線の問題もありますけれども、計画というか住む人から見れば、どういった環境がいい  
150 とか悪いとかではなくて、私景観が専門なんですけれども、なかなか優れた景観と里山と家との景

151 観なところにこの生活、双葉町ができた。そういう大きな財産をどう考えるかによって、その後  
152 の結果論、お祭りとか、そういう話になっていくわけです。基本的には向こうの部会と重なりま  
153 すけれども、そこがあったこともコミュニティの土台というのを歴史文化がただ残ってるやつを  
154 継承するだけじゃなくて、あの地域をもうなくなっちゃっていいのか、というそういう前提に立  
155 つのか、やはり 75 年、150 年経っても、そういうものがあってという前提でいくのか。その辺  
156 を、方針を少し決めた上で違った形の生活の仕方はどうするかという形に、多様にいかないと、  
157 みんな多様だと少しまとまりが難しいかなと思いますので、是非あの地域の空間の価値をみんな  
158 で発掘して、それを次の世代につなげるのが基本だということの中でもう少し自由に動いた生活  
159 をまた考える方がいいように思いますけど。2 の場合もある地域の基本的に空間の資産というの  
160 は、どういうものがあつたかを併せて、お祭りとかそういうものをやっていけば、イベントをで  
161 すね。

162 【岡村 隆夫 副部会長】

163 まさしくその通りですね。私先生の方は具体的な話なんですけど、私こだわるわけではないんで  
164 すが、今日も出ましたけれども、町長の 30 年というのは健康のことも考えた年数というのが、  
165 我々が受け止めないといけないだろうと。そうすると、やっぱりこの復興の町を、最終的な町に  
166 するのかもしれないかまだ分からないわけですから、きずなをつくっておく、双葉町の町民の顔を  
167 向けてもらうということを見ると、かなりしっかりした今、宇杉先生から出たようなことをも  
168 う 1 つ出して、私は細かいことは考えない人間なものですから、どっかのところに、その起点を  
169 つくっていくと。そこでつなぎ方を考えていけばいいのかなと思って。特に、今日触れていませ  
170 んでしたけれど、では双葉町をどこでつくるかと言うと、これなかなかつけれないというのも私  
171 は事実ではないかと思っているんです。分散型と集中型の話になってきたときに集中型のまちづ  
172 くりというのはかなり厳しいだろう。これは少し前に私聞いている。

173 【宇杉 和夫 委員】

174 仮の町じゃないですよ。

175 【岡村 隆夫 副部会長】

176 仮の町ではないです。でもほとんど受け入れしてくれる自治体が、「自分の市町村を半分ほど  
177 よこせ」なんて言ったところで納得しないわけですから。やはりそこは我々も復興だから国に責  
178 任持てと言っても、やっぱり町にお世話になるんだということで、こじんまりとした形が必要で  
179 はないか。その中で私は核の復興の町をつくるべきじゃないかと、こういうことで。その中に伝  
180 承を含めたコミュニティの核を是非つくっていきいたいなと思っているんですが、そういう考え方  
181 です。

182 【宇杉 和夫 委員】

183 それも 1 つなのか。1 つの核をつくっても、核というのは要するに、他の人があって核です  
184 から。核だけをつくってもしょうがない。他の仕組みと核がどういうふうに機能するかで核であ  
185 って、ここだけを建物とかいろいろつくっても核にならないわけですね。他の人が、ここに住む人  
186 もいるし、何かの時にどう使えるかという、全体のネットワークがあって初めて核です。そ  
187 れが 1 つなのか、2 つなのか。県内だけでいいのか、県外にもそういうものが必要なのか。文  
188 化をどう守ってまた外にどう 1 つの責任、誰が責任か。これは地震と津波と違いますので、放射

189 線の問題が、誰が起って誰が国なのか、東電なのか、もっと言うと日本国民なのか、そういうふう  
190 うに違いますけども。今日聞いた現状については不満も、津波と地震だけではないですよ。そ  
191 この問題をどういうふうに自分たちだけではなくて、日本国民に共有してもらおうのかということ  
192 を考えればいいのです。また子どもの安全性から考えれば、必ずしも県内だけに絞るというも  
193 ではなくて、いろいろな機能をどう組み合わせるかという仕組みを双葉町が1つの義務として責  
194 務としてやっていく町なのか、これから町が1つの謄本みたいになるかわかりませんが、  
195 今の形からすれば、そういうふうに思うんですよ。1つのだけじゃなくて核というのは他のも  
196 のがあってはじめて核ですから、核にした人が仮の町かと言えば、そうじゃなくて、核は復興住  
197 宅、または仮設住宅、借上げやと何かそういうことに通ってくるかわかりませんが、そう  
198 いう人たち、または実際に他に住民票を移しちゃって、でもやっぱりそこに関係を持ちたいとい  
199 う人たちに、それは多様ですけども、開けてみればそんなにたくさん100も200もあるわけじ  
200 やなくて、だいたい10パターンもいかないぐらいですよ。

201 **【岩元 善一 委員】**

202 今岡村副会長がおっしゃったんですけども、私も考えてきたんですけども、仮の町、こ  
203 れは1カ所に集中するというのではなくて、分散型かどうかかわからないですけども、現状では  
204 たぶん分散型になるだろうと私は思っております。その場合、復興住宅で生活する人、これらの  
205 方々に対しては何らかの形で自治会ができるので。ある程度のコミュニケーションは図れると思  
206 いますけれど、仕事の関係とか子どもの学校の関係で復興住宅に入れない人、その方たちに対す  
207 るフォローをどうするかということだと思えます。先日も申しあげましたけれども、社会福祉  
208 協議会では、県内各地で安否を確認している。一軒一軒回ってお会いすると大変喜ぶというこ  
209 なんです。ただ広範囲で支援員が少ないというふうなので、全く大変だというふうなことをおっ  
210 しゃっていました。また、民生委員の方。これは齊藤委員がやってんだね、民生委員。民生委員  
211 の方も今までと同じ数だけの民生委員だと、やっぱり広範囲になっちゃったということで、まわ  
212 るのが大変なんだと言っていました。もっと増やしてもらえばいいんじゃないかなというふうな  
213 ことを踏まえて、復興住宅以外の町民に対するフォロー、これに対してきめ細かくフォローする  
214 ためには、ある程度の経費の補助、それからある程度の人員、これが必要だと思うんですよ。資  
215 金的なものについては限度があるので、町民のボランティアを組織して各地区において訪問して  
216 歩くというふうなことも検討してはいいんじゃないかなというふうに思ったんですけど。

217 **【宇杉 和夫 委員】**

218 そのことについては、その今までの町の中の民生福祉の中では難しい部分もあると思うんです  
219 よね。ですから、その地域にもありますので、例えばこれはですね。この地域の仕組みとか、  
220 今、地域の居住化学会で、その地域がどういう地域として支援ができるかということこれから  
221 今、私立ち上げますけれども。その地域の方で来られた方を受け入れる形だけじゃなくて、こう  
222 いうものが起こった、日本の国に起こったときには、地域がそういうのを支えないといけないと。  
223 いけないというのはおかしいですけど、そういう関係があると思うんですよ。そういうのもでき  
224 ると。埼玉県東松山市長はそういうことを熱心にやってるわけです。地域の福祉のつながりとい  
225 うのができる仕組みがあってもいいと思うんですよ。必ずしもその双葉町の人だけじゃなくて  
226 地域のなかで、そういうまだどこになるかわからないけど、地域の方たちとの交流の中でもそう

227 いう仕組みがあっただけいいのでは、こういう体験が日本にはなかったわけですから。

228 **【岩元 善一 委員】**

229 そういう仕組みあるんです。町外の人というのは、例えば会津若松なら会津若松の生活相談員  
230 とか保健師が回っている、一緒に歩いてるんですけど、その地域の人たちが行くとなかなか受け  
231 入れてくれない。双葉の人が行くと、ずっと上げてくれるし話してくれるということで、双葉の  
232 人が中心になってそういうところをまわって歩くことが一番大切かなというふうに思ったんで  
233 すけど。先程も言ったように資金的にも限度があるので、ボランティア活動を数多くつくって、  
234 拠点としてやったらどうかな、というのを提案したいと思います。

235 **【齊藤 宗一 委員】**

236 下の方に書いてある避難先住民との交流促進は私が実際にやって、取り組んでいるんですよ。  
237 というのはやっぱり私らのところは幸いに地方なんですよ。まわりにまた山田地区というんで  
238 すけれども、私のまわり。6,000 人の人口、双葉町の少し小さくしたような、20 なんぼの行政区  
239 があるんですよ。その山田地区と言うんですけども。それらの方々の地域交流ということで、  
240 お城跡散策しないとか、地元でもやってくれてるんですよ。そんなことで一緒に私らの方の参  
241 加したり、あとは、1 月新年ということで、区長会とか自治会の集まり、そんなこともお誘いを  
242 受けたり、「じゃあせっかくだから三役そろって行くべ」とか、そんなお誘いを受けて地域  
243 交流はしているつもりなんです。逆にこっちでもチラシ配布ぐらいしか、例えばダルマ市のパ  
244 ンプ、回覧はともかく、掲示板に貼ってもらうとか、そんなわけで、行政区長が私らのところへ  
245 回ってきたのね。「いつもお世話になってます」と言ってね。逆に入ってきてくれるんですよ。  
246 お誘いも逆に受けると。いわきの中の勿来地区も社協と一緒に入ってきてくれる。そういうこと  
247 やっています。これはたまたま地方という場所だからできたのかなと。あれが町の真ん中であれ  
248 ばどうだったかなと。

249 **【岩元 善一 委員】**

250 いや、会長が立派だからだ。

251 **【齊藤 宗一 委員】**

252 だから隣の、広野、檜葉とかありますけども、町の中にあるところはやっぱりそこで孤立し  
253 ちゃってる。逆にこっち支援物資関係のある人からのこれもそこに回してやったり、こっちも大  
254 型車 3 台もらってもなんとも仕方ないんで。双葉郡内の町村に逆に合せて回してやって。そんな  
255 ことで違う避難地域での交流もしてます。

256 **【岡村 隆夫 副部長】**

257 後どうですか、その他のことで、いろいろと項目ありますので。

258 **【齊藤 宗一 委員】**

259 先程あった通り、一番上の町民のコミュニティの維持・発展に向けた取組、この中の下の、町  
260 民同士が連絡を取り合うことのできる仕組み、町民同士が集まれる場の設置、その運営指針、こ  
261 れが先程宇杉先生がおっしゃった、子どもたちが集まれる場所、高齢者が集えるところ、その件で  
262 すか。

263 **【宇杉 和夫 委員】**

264 学校でも、住宅でも、学校外でも、先話しましたけれども、ここに来た学校だけじゃなくて、前

265 にあった学校があって、前にあった学校の生活を続ける権利があるわけですね、子どもたちは  
266 ね。それが出来ない時に新しい学校に行くか行かないかこっちに行くかそういう選択だけじゃな  
267 くて、前あった学校の友たちと仕組みが1つの学校というものでつくる、場合によっては寄宿、  
268 短期的な寄宿とか、そういう違った学校とすればこういう授業をやって、特別教室がこう並んで、  
269 こうできるというようじゃなくて、そういう学校としても必要ですけれども、こういう特別な形  
270 のつくった子どもたちの持つてくる権利をどうつなげて、また、学校、その間でも学校、他の子ども  
271 たちが他の学校に行ってもそこでもまた交流できるでしょうし、大変難しいマイナスな部分だけ  
272 じゃなくて、そこでなんかこうそういう場所で育ててそういうもの、学校にも行かなくても、そ  
273 ういうものを学校としてつくってあげたいと言いますか、出来事がダメになっちゃって、こっち  
274 に行くか行かないかで選択して、こっちに来たじゃなくて、こういうような新しい学校になると  
275 思うんですね。私の教え子が文科省で学校の防災の担当でいますけれども、そういうところに積  
276 極的に話していけば対応できると思うんですね。

277 【岡村 隆夫 副部長】

278 私、ずっと会議に出ていて、やっぱり今日の意見も出ましたけど、時期が1つの大きなポイント  
279 じゃないかなと思うんですね。やっぱり、早めに、確かに水も漏れないような計画を作ってい  
280 くのもこれも1つかもしれないですけど、多少水が漏れてもまずは早めに、1つの核というのは、  
281 大きな核が1つということで、ある程度、おそらくばらばらの核もあるでしょう。それから中間  
282 の核もあるだろうし、そして最終的なここでまとめるという核も出てくると思う。そういうこと  
283 を早く実行して町民をこちらに顔をむけて行動してもらおうということは、やっぱり絶対必要な  
284 ことかなと。先程も出ましたように全体会議に、時間との私はそろそろ戦いにきているのではない  
285 かと。というのは生活環境の仮設の問題とかなんかで、皆さんのギリギリ厳しいところに来て  
286 わけですから、だから、我々が一番何が大事かということは町民を同じ方向に顔を向けさせるた  
287 めの、時間との戦いをこれ進めていかないといけないかと思っているんですがね。

288 【宇杉 和夫 委員】

289 やっぱり長期的に、例えば仮の町も早く、全体のテーマもあるけど、始めなきゃいけない。た  
290 だあその地域で、どんな形で町になるかは別として、元々住んでいた地域の権利があるわけ  
291 ですね。新しい中間貯蔵施設がどこにできるかあるかもしれませんけども、それが「全く新しい形  
292 にこれからするよ」という形にたつと、他に「ほかの町でもいいんじゃないかな」とかですね。  
293 集合住宅を建てるとなりますけど、基本的にもともとあった住んでた町が100年は経っても必要  
294 だという前提にたてば、一旦はそれできないですよ、少なくとも。なんらか形のものをつくら  
295 ないといけない、まさに町の中にですよ。もちろん、行ける人と行けない人とがいるかもしれない  
296 けど。どっかにそれが学校なのか、学習にいくような施設なのか、居住する施設なのか、住宅な  
297 のかわかりませんが、それも仮の町と一緒に考えなくちゃいけない。仮の町をつくるのと、町  
298 の中に最初に何を作るのか、それはずっと住まなくてもですね。一時帰宅の中でも、各家に行く  
299 だけじゃなくて、もうなんかつくるんですよ。それと合せてこっちもなにかつくる、それをはじ  
300 めていかなきゃいけない。それは最終的には、元々の家にみんな戻れるという仕組みの一步だ  
301 という話しないで、全く新しい土地を立体化して理想的な町と言っても、だいたい理想的な町  
302 はユートピアじゃないですから。ばらばらでいつも意見が変わっていく、ごちゃごちゃの町が出



303 来て、日本の町はできてるんですよ。日本の町、極端な建築的デザインからすれば、もうがらく  
304 たでしょとまで言わないですけど、そうなんですよ。その理想的な町というだけじゃなくて、  
305 今まであったいいものをどうつなげるかが我々の役目なんです。都市計画というのは。それを間  
306 違えると、全く新しいものをつくって、何をこっちにつくるとか、そのプロセスとしてはただ同  
307 じものはできませんから、何をこっちにつくるとかは、仮の町も一緒だと思います。

308 【岡村 隆夫 副部長】

309 それと少し付け加えると、我々このスタンスに立った時に今、皆さんの年齢レベル、それか  
310 ら自分たちの子どもの世代、例えば今の世代の人はある程度集まるということは、次子どもたち  
311 の再会の集いは非常に有意義ですよ。あの有意義な再開の集いは、私、大人にも大事だし、そ  
312 うすると子どもたちがそこを求めている部分いっぱいあるわけですね。子どもたちにも次、復興  
313 まちづくりの、そこに参加してくれるということは大事かなと。だんだんと子どもたちも何年も  
314 別の学校に行っているとだんだんこっちを忘れてくるのですが、ただ、私らよりも子どもたちの  
315 方が、私も経験あるのですが、転校してきた子どもたちのことを会いたいという気持ちがすん  
316 ごいあるんですね。あの辺の気持ちを今の子どもたちにも伝えて早くこれを進めて、そこに文  
317 化とか伝承というものを一緒に教えていくことがすごい大事かなと思うんですがね。ですから、  
318 いつもまとまりなくて申し訳ないんですが、一日も早く復興計画を立ち上げるということをやっ  
319 て、その中にきずな部会がどういうふうに進んでいくかと。

320 【宇杉 和夫 委員】

321 いやいやそうじゃなくて、きずなの仕組みができないと他のものダメですね。食い込むんじや  
322 なくて、他の建物は別として、きずなの仕組みができてはじめて空間の仕組みができる。それを  
323 守らないとただ同じ建物がどっかにできてね、10年たったら機能的なものじゃなくて違った意  
324 味で見られるわけで、本当にやってきた成果でこういうものができた形で見られないで、このよ  
325 うなものができたのかという形で見られるだけになっちゃうと思うんですよ。空間の仕組みもき  
326 ずなの仕組みでつくって、それを形にしていく形じゃないと。そういう意味で大変重要な部会に  
327 なりますので。

328 【岡村 隆夫 副部長】

329 ざっくばらんに出してください。

330 【中村 富美子 委員】

331 先程先生からも復興会議がいろいろな町の、町長の問題、議会の問題とかいろいろなのがあつ  
332 て、「まちづくりの復興委員会はもうなくなって、3月になったらただやっただけで、無駄になん  
333 じゃないか」とみんな結構そう思ってますよね。先程、「これはなくなんない」と言われ、私  
334 も安心しているんですけども。せつかくここまで、「みんなでやろう」と前向いて、また家に戻  
335 って、町長に答申して議会と一緒にあってとうたってありますね。それでまたごちゃごちゃにな  
336 って、それでいつまでも復興まちづくり委員会なんかあるんだかないんだかわからないような、  
337 ただ集まって、ただ話して、上の者だけがやってんじゃないかとみんな思ってる会議にならない  
338 ように、私も大丈夫なんだなと思ってきたんですけど。30年と町長も、遅いんですけど、いま  
339 ちんと早く言って言ったとき、「もっとかかる」とか、「5年ではダメだよ」と。木村先生は避難  
340 後150年だって言ったときに、双葉町も帰れねだからと。一言でもいってくれれば、みんなのそ

341 のつもりで少しずつでも前に向きながらも、帰れないならといって生活設計も少し始めて、仮の  
342 町の方、復興にも進めて行けたと思うんですけど、「帰れるよ帰れるよ」と言っていたもんで、  
343 高齢者の人たちは帰れるだってね。絶対帰るんだとなったんでしょ。この前、つくばの方でも  
344 も話したんですけど、「中村委員いったんだがねえ。早く帰るんだからもう早く帰せと言ってこ  
345 いよ。」と言われて、「そんな問題ではないですよ」なんて話したんですけど。やっぱりこの 30  
346 年と言われたからみんなドンときているんですよ。だけど私らは、子どもや孫やみんなのこ  
347 を考えたら、言ってもらって、私は良かったと思うんですよ。そうすると、心を決めて仮の町に  
348 進めると思うんですよ。これからが正念場だと思います。高齢者の問題とか、高齢者は本当に困  
349 っているみたいです。電話もいただきますし、私ら婦人会でも結構高齢の人いますからね。「も  
350 う本当に死ぬの待っているんだよ」というような意見です。「そんなこと言わないでがんばろ、  
351 がんばろ」と言うんだけど、「どこまで頑張ればいい」なんて言うんですけど。「少しでも情報を  
352 どんどんこんな進み方しているんだよ」と、まだできていないからですけど。詳細にどんどん  
353 みんなにやっぱり情報を出して、ここまでやった方がいいとか。それで、電話帳なんかも早く、  
354 ここななかで出来ましたから、こんなの出ましたからじゃなくてできるものは早く出して情報提  
355 供したらいいかなと考えますけどね。

356 【岡村 隆夫 副部長】

357 電話帳の話はきずなの他で出てましたっけ。

358 【事務局 橋本 靖治】

359 部会で言うときずなです。

360 【岡村 隆夫 副部長】

361 この意見は当初一番最初出ましたよね。中村委員から出たように全くそうだと思うんで。他町  
362 村はつくりましたか。まだですか。

363 【事務局 橋本 靖治】

364 富岡はつくりました。あと大熊は少し動いているというふうに聞いています。

365 【岡村 隆夫 副部長】

366 富岡は出来ているんですか。

367 【事務局 橋本 靖治】

368 できてます。

369 【岡村 隆夫 副部長】

370 大事な事だよ。

371 【中村 富美子 委員】

372 できることからね。少しでもいいから。地区の方で区長さんがいらっしゃいますから、区長  
373 さんのところにはいろいろ集まっていると思います。「それでいいですか」と区長の方から言っ  
374 て、OK 出れば、「いいよ」と。「ここの地区いいよ」、「ここもいいよ」と言えばすぐにできると  
375 思うんですよ。ただ、「役場さんの方ではやりましょう」とは言えないと思うんで、下の方  
376 からみんなの意見を吸い上げてやれば。うちのほうでもこの前 1 月に集まったんですけども、亡  
377 くなった方、この前齊籐委員が言った通りで、亡くなった人全然わかんないですよ、やっぱり。  
378 あらそうだったんだ、おばあちゃんが亡くなって、この前おじいちゃんが亡くなってたんだよ、

379            そうですか、全然知らないんですよね。だからそういうのを、今度は地区の方では区長に連絡し  
380            て、区長がみんなに連絡をするという話し合いにしたんですけど。少しでもコミュニティをみんな  
381            なで少しずつまとめてね。

382 【宇杉 和夫 委員】

383            大事な成果を言っていますけど、その成果を経て、電話帳も含めて次の目的がありますよね。

384 【中村 富美子 委員】

385            そうですね。

386 【宇杉 和夫 委員】

387            結局は 30 年のプロセスだと思うんですよね。プロセスという過程ですね。こうなったら良か  
388            ったじゃなくて、これから絶えず 30 年は確保しないといけないわけですよね。同じように今まで  
389            被災されてどういうプロセスがあったかというものすごく大事だと思うんですよね。プロセス  
390            が大事だと言う事がこの計画で、そう言う意味ではこの案が良いかこの案が良いかということで、  
391            来年から体制が変わってからこうなったじゃなくて、プロセスを積み重ねて、ずっといくことが  
392            今度のコミュニティの役割もそうですし、全体のプロセスを、仕組みをつくっていくというのは、  
393            今までどうだったかが、とても大事だと思うんですよね。

394 【岡村 隆夫 副部長】

395            今度のアンケートにはいっていなかったんですよね。電話帳が欲しいじゃなくて、つくるべき  
396            かどうかというのは、アンケートに出ましたっけ。出てませんね。

397 【齊藤 宗一 委員】

398            書いてないな。ただ、似たようなコミュニティのような、どこかでさっきの説明の中でも、電  
399            話帳の話、町民同士の情報交換のところで話あったが。

400 【岡村 隆夫 副部長】

401            ですから、そう言う意味で。電話帳、このきずなの部会でやるということであれば、これから  
402            いつまでにどういうふうに進めるか、どんな方法で進めるかということをごここで決めていって。  
403            今、中村委員からも出てきたように、3 月で終わっちゃうのか、この会がね。3 月までやるのか。  
404            3 月以降になってもやるのかとか。ある程度話してもいいですよ。これ基本だもんね。

405 【宇杉 和夫 委員】

406            そうですね。ですから全部やるということが納得できないときには、情報公開とかあれば、や  
407            っぱり町内会とか今ある自治会とか、それも前の町内会と今の自治会をどう関連付けていくのか  
408            とか、あと学校の子どもたちのものにするとか。もうやらないといけないわけですよ。電話帳  
409            という形が、出来るのか、出来ないのか、やるのか、やらないのか、途中のものは何をするのか  
410            を、やらないといけないわけですよ。これははっきりしてることです。あとは何からやるか  
411            ということ。

412 【岡村 隆夫 副部長】

413            どうでしょうかね。今、大変大事な事だったんで、この電話帳ということについて。

414 【齊藤 宗一 委員】

415            これ括弧書きで情報交換電話帳作成といれることはできんですか。

416 【岡村 隆夫 副部長】

417 きずなではいいと思うよ。

418 【齊藤 宗一 委員】

419 括弧の中の括弧書きで、電話帳作成と。

420 【宇杉 和夫 委員】

421 町民の方々の全体に出回っていいわけですよ、これは。それはどうなんですか、皆さんは。

422 【横山 泰仁（重富 秀一 委員代理）】

423 今個人情報とか、少し前までは本当に電話帳はオープンで出ていたわけですけど、双葉町の電  
424 話帳を作って、はたしてどれだけのそのメリットがあるのかなと思うんですね。たぶん連絡を取  
425 り合っている人は、もうここに自分のエリアの連絡取り合ってる人はしっかりとつくってると思  
426 うんですね。ですから、自分が関わらないエリアの人まではたしてそこまで必要なのかなと。  
427 私は否定的なんですけど。

428 【宇杉 和夫 委員】

429 そこを整理しなきゃいけない。

430 【事務局 橋本 靖治】

431 富岡町だけの事例だけ申し上げます。私先日行って、取り組んだ方の話を聞いて、電話帳も見  
432 せてもらいました。個人にはがきを出して載せてもよい人は住所・電話番号、どっちも載せてく  
433 れと。載せたくない人は名前だけ載って空欄になる電話帳なんです。名前 50 音順での電話帳  
434 の部分とその後半は避難先ごとの名前が並んでるんです。だから、名前で検索しても電話かけら  
435 れるし、例えば、つくばに住んでんだけど、誰がつくばにいいのかというのも検索できるように  
436 二段構えの電話帳になっています。ただいろいろやっぱり問題あるそうです。というのも、悪用  
437 される、例えば、転売してしまったりとか。不動産屋さんが欲しがっているそうです。不動産屋  
438 さんが片っ端から電話して家を売りたいわけですよ。そういった問題もるので、富岡町ではナ  
439 ンバーリング。ナンバーをふって誰に何番の電話帳を渡したというのまで管理してるんです。だ  
440 から、やったらやっただ必要な人もいれば、悪用されないための手法というのも考えないといけ  
441 ないかなと思います。あくまでも個人情報ですけど、希望者だけが載せられるという。そういつ  
442 たものであれば解決できるんじゃないかということです。

443 【宇杉 和夫 委員】

444 企業でも学会でも電話帳みたいなハードなものは作らないで、必要なものは必要な範囲を公開  
445 資料の形になっているので。電話帳みたくこうなっちゃうと、商品みたいに、外の産業からする  
446 と商品みたいに売られちゃうんですが、今はやめている状況ですよ。

447 【大住 宗重 委員】

448 富岡では町のいろいろな情報を町からもらっていると思うんです。この電話帳は町と一体とな  
449 っています社会福祉協議会が表に出ている。うちの健康福祉課長は富岡町民ですので、見せてい  
450 ただいたんです。自分で出せる情報、住所だけの人もあります。あとは世帯主で、世帯主の私だけ  
451 なら私だけのとか。やはり子どもさんとか女性の方は、やはり携帯電話の情報は、全くの個人情  
452 報なんで、全体の確か半分はいつてはいないと思うんですけど、富岡町さんも。いろいろうちの  
453 ほうも住民生活課でその富岡さんのいろいろな問題もたぶんでているんで、そういったのをいろ  
454 いろ集めて、実際どうなのかと、今検討している状況です。これが不動産屋にぼんとやられちゃ

455 うと、皆さん今度、これから財物関係が具体的にってきますので、いろいろな電話がはいっ  
456 ちやうと大変なことになっちゃうんで。

457 【宇杉 和夫 委員】

458 住民全体でこうやるのか、社会福祉とか、学校とか、自治会とか、そういう形でやるのか、そ  
459 れもハードなこれでやるんじゃないなくて、どうするのかということも、そろそろ決めないとやらな  
460 いと。

461 【岡村 隆夫 副部長】

462 どうでしょうか。時間等もありますんで、電話帳の件については、賛否両論ありますけども、  
463 また次回に話をしても遅くはないと思うんで。

464 【松本 浩一 委員】

465 端的に申しあげますと、これまでは「0240 - 33」の有線でしたよね。個人情報ではあります  
466 けれども、責任をもってお互いに NTT に。今度は有線電話をいれてるといのは少ないんじ  
467 ないんですかね。ですから、本人に承諾は得ているといえども、横山さんもおっしゃったように、  
468 そのことでお年寄りで誰かと連絡とりたいと安易に載つけたけれども、なんか、いろいろなのが  
469 入ってきて迷惑なんだなと問題も発生するんだったんならば、手間暇かけてお金をかけるんだっ  
470 たら、考えるとどうかなと。話したように手間暇かけてお金かけてやるメリットがあるのかなと。  
471 必要な情報はそれぞれ収集しているので。

472 【岡村 隆夫 副部長】

473 ただ、今ここで、この中では出て来るんですよ。電話帳とか連絡する方法がほしいという要  
474 望は結構あるんです。地域の 7000 人の復興会議のときに行きますとね。だからその辺はどのレ  
475 ベルかというのはわかりませんが、そういう要望を考えて。孤立している人もいますん  
476 ですよ。積極的にやっている人はもうやっているんです。だけでも、孤立している、どっちかと言  
477 うと孤立している人、こっちからひっぱりだして、首ったま捕まえていかなければならない人とい  
478 うのは、なかなかやっていないんですよ、その辺をどうやっていこうかということなんです。

479 【横山 泰仁 (重富 秀一 委員代理)】

480 電話帳が、はたして 7000 人の町民が何%必要としているのかざっくりした、それをつ  
481 かんでおかないと、それこそ 1%2%のために、手間暇かけてそれをつくるものなのかというこ  
482 とがありますよね。そこら辺を今回のアンケート調査ではその部分が入ってなかったんですけど、  
483 そこら辺を、どういうふうに、全体のきずなをいろいろときちっと構築するために、これは絶対  
484 に必要なんだというものがあれば、本気になってやろうぜというふうになると思うんですけど、  
485 その入り口ですよ。

486 【岡村 隆夫 副部長】

487 わかりました。実際に、この復興の中でそういうアンケートというか、例えば、はがきを、往  
488 復はがきを、個人情報が必要か必要ないでないか。必要でないと×をつけるのか、必要だったら  
489 住所も教えてもいいですよというアンケートを取ればいいわけで。そういう取り方もあるんじ  
490 ないかと思うんで。そういうアンケートをとるべきかどうかということを経験的に次回までにい  
491 ろいろ考えて、また、少し実態も調べてきていただいて、そこでやるのがいいかなと思うんで、  
492 いかがですか。

493 【大住 宗重 委員】

494 参考までに、あの人に連絡が取りたいということで、町に照会が来る場合があります。それは  
495 当然、本人の了解を得て教えています。どうしても避難している場所、親戚ですとか、町内の、  
496 親戚とかにどうしても取りたい方に、どうしても用事・連絡取りたい場合は町が中継で了解をも  
497 らって、情報提供というのを現在しております。

498 【横山 泰仁（重富 秀一 委員代理）】

499 若い人は個人情報で敏感になっているものですから、例えば、「町が電話帳つくるよ」と言っ  
500 ても、はたして登録してくれる人が何人かいるという問題もありますよね。そうすると結局意味  
501 がなくなっちゃいますよね。

502 【岩元 善一 委員】

503 結局、電話帳を作ると言えば欲しい人は多いと思うの、むしろ。個人情報云々じゃなくて。今  
504 までやってた NTT の電話帳は、自分の情報は出さないよといったら出してないんだから。だし  
505 てもいいよという人がだしているんですから。そういう方法だったら、意外と作ったと言え、  
506 町民は欲しいと言う人は多いのではないかと私は思うんだけども。つくればですよ。

507 【横山 泰仁（重富 秀一 委員代理）】

508 情報を出してくれなければ、例えば 7,000 人くらいの方がきちんと「電話帳に載せてもいいよ」  
509 という人が、1,000 人くらいとすればはたして、1,000 人の電話帳でどのくらいのメリットがあ  
510 るのかという部分もありますよね。

511 【岡村 隆夫 副部長】

512 なかなか難しいですが、やっぱり 7000 人の会議に出ていきますとそういう意見があることも  
513 事実だということも、やっぱり皆さんにも、その裏にも書いてあったかな。他のにも書いてあっ  
514 たかな、なんかありましたよね。その辺も次回あたりにやって。

515

516 (2) その他

517 【事務局 橋本 靖治】

518 最後に事務局からなんですが、今日、ご意見として出さなかったけど、帰りの途中であれも言  
519 っておけばよかったという意見があれば 23 日までご提案いただいて、次回 31 日の部会、もしく  
520 は委員会に入りたいと思いますので、23 日までに私の方までにご連絡いただければと思います。  
521 よろしくをお願いします。

522

523 3. 閉 会

524 【岡村 隆夫 副部長】

525 時間がありませんので、とりあえずまとまりのない司会で申し訳なかったんですが、やはりき  
526 ずなの本拠地をつくるために、本拠地を含めてもう少しまとめていかなきゃいけないというこ  
527 で。こんなまとめで申し訳ないですが、こんなまとめで申し訳ないです。今日はこの辺でよろし  
528 いですか。ありがとうございました。

529

530

以上

# 第4回きずな部会座席表

(敬称略)

岡村  
隆夫



1 日時 平成25年1月17日(木)

15:00~15:45

2 場所 双葉町埼玉支所 4階 4-C

中村 富美子

岩元 善一

(代理)  
横山 泰仁

松本 浩一

宇杉 和夫

齊藤 宗一

大住 宗重

今泉 祐一

橋本

事務局  
西牧

松崎

事務局